

子どもたちの夢をあきらめさせない！ 緊急アピール

「家庭の経済状況を子どもなりに配慮し、行事に参加しなくなり学校から遠のく」「授業料が払えず退学する」（日教組・学級担任アンケート）。いま子どもたちが置かれている厳しい実態を担任は訴えています。

「一度しかない人生なのに、資金面での夢をあきらめは、親として残念で、悔やまれてなりません」（あしなが育英会・進路アンケート）。母親の声は胸に迫ります。

今日、世界同時不況の影響は保護者の雇用や賃金に及び、家計を逼迫させています。一人親とりわけ母親の労働環境は悪化し、6割が非正規、5人に1人が2つ以上の仕事をかけ持ちしています。にもかかわらず母子家庭の年収は一般家庭の3割以下に落ち込んでいます。さらに母子家庭の遺族年金をカットする、生活保護の母子加算もカットする。政府の政策はあまりにも過酷です。

貧困は子どもたちの成長や学力、健康、虐待問題のほか長期的には将来の職業や所得に大きく影響します。子ども期の貧困は世代を超えて引き継がれ、「貧困の固定化・連鎖」を生みだしています。

「改革」が叫ばれている間に競争・効率・自己責任などの言葉がもてはやされ、公正・平等という社会正義の概念は消し去られ、人間の連帯を断ち切ってきました。だからこそ今、一人ひとりの行動をつなぎ、子ども支援に立ち上がる必要があります。

私たちはこれまでも「就学・修学保障制度の充実を求める」署名にとりくんできました。さらに働くものの共助によって、子どもたちが自分の“夢”を決してあきらめることがないように、「子ども救援カンパ」の輪を広げましょう。

そして自助だけが強調され、子どもの貧困を生み出している現在の社会を変えるため、あらためて公的助成制度の充実を政府に求めていく運動をとものにすすめましょう。

2009年7月6日

日本教職員組合 第97回定期大会